

自然保護委員会お便り 2023・10月・11月号

2023・秋 環境登山パート2 報告

10月22日(日) 晴れ

参加者18名 一般参加者 ご夫婦2名、親子3名、1名(男)、青稜クラブ(相模原)3名、SC 丹沢秦野(トレランチーム)3名、JMCA 自然保護委員会1名、岳連・自然保護委員会5名

コース 菩提峠駐車場 9:30～ヤマトタケルの足跡 10:30～植樹活動 11:00～昼食・ヤマトタケルの足跡 12:00～菩提峠駐車場 13:00

標高差 340m、往復2km。



報告 7:44 発ヤビツ峠行きバス、増発(先頭付近に並べた)は来たけれど 8 時 07 分発となり、菩提峠集合時間に間に合うかと…の状況になった。ヤビツ峠(8:42 着～8:48 発)から歩き出すと、一度ヤビツ峠に帰りのバス時刻をスマホで写しに戻って、ほどなくして車が止まった。県岳連自然保護委員長の S さんでした。同乗する。菩提峠(9:05 着)で下車、受付と委員長挨拶、司会からの作業概要説明、参加者の自己紹介、受領品と資材の荷分け(特に運ばず)、ラジオ体操後に 9:30 頃に出発した。ロープ場も一部ある。真鶴半島、初島、伊豆大島も見える。江の島はもっと左の方で見えない。1 回休みを入れてヤマトタケルの足跡に着く(10:27)。途中で、?キク、アザミ、トリカブト、(下山時にセンブリらしきのを写している参加者が居た)を見た。M さんは大きいのはフジアザミと言っていた。ザックを置いて、苗とネットとポールを少し上の斜面に運んでくれた。運搬方は委員会の若手他が担当。都岳連から O さんも参加、小学 6? 小学 3 年生も居て総勢 18 名ほど。植え方の見本を F さんと I がすることになり、S さんのやり方の声が飛ぶのに従う。参加者がそれぞれに散らばって植えた。見本を含めて 2 種類 5~6 本ほどを植えた。M さんは他の女性と組んで植えた。11 時 40 分頃から足跡の前で昼食。記念写真を撮って 12 時 20 分ころ下山開始。13 時 00 分に菩提峠に戻り、苗包みや資材包装材の片付け、資材置き場小屋に収納、解散式などの後、13 時 18 分にまた S さんに同乗させてもらい秦野駅まで戻った(14:07)。途中、ヤビツ峠で資材ゴミを降ろした。

『植えながら、他の木や草などに負けずに育てばいいなと思い、それを見に来られればなお良いと思った』、感想です。I 塚より。



相模原の青稜クラブ I 塚さんの報告と感想を載せさせていただきました。I 塚さんは、この『環境登山』を開始したころから、ご参加いただいております。参加者みなさん、お疲れさまでした！！

報告その2 動物・植物について

途中、アザミの群生地帯がある。そこに、希少種『フジアザミ』の花株が、登山道わきにあった。数えると5株以上群生している丘の場所があった。全部数えると10株以上あるとおもう。他、センブリ、ヤマホトギスが。シロヨメナ・？植樹地に真新しい鹿のフン。私たちが来る前遊んでたのかな？青稜クラブ M さんは花、植物にとっても詳しい。ヤマトタケルの足跡で育っている一本のブナは、葉脈が9筋あり、犬ブナではなく本ブナと思うとおっしゃっていた。ヤマトタケルの足跡周辺の幽玄なたたずまいに溶け込んで、一緒に、植樹のブナもこの森の一部になっていってほしい。今回のヤマボウシの苗は、熊フン採種苗です。また、丹沢の土から育ちます！

報告その3 登山道について

菩提峠からの登山道は、トラロープのつけられた急登がある。当日は晴れていたが、雨でぬかるんだり、冬は霜がつく。あと一か所、倒木が道をいつもふさいでいる。大木をまたぎながら、くぐりながらその個所を過ぎる。ここ数年、この倒木は登山道をずっとふさいでいる。環境省・自然公園指導員報告書に、リアル報告様式1があります。すぐ届けたいと思う。



『丹沢のブナ』を植えました。山桜、ヤマボウシと、一緒にいろんなドングリ、山栗、松ぼっくりを子どもたちと植えました。『実』は本来、動物や鳥が運びますが、ちょっとお手伝いをしました次第。

自然に強い混交林の森林を、思い描いています。

自然に強いとは、自然災害に強い森林です。大雨が降っても、土砂流れしない森、倒木しない木々です。

登山道維持管理・整備活動報告 大山イタツミ尾根線

11月12日(日)曇り時々雨

参加者15名(男12名、女3名) 川崎、横須賀、秦野、藤沢の各山岳協会、SC 丹沢秦野・トレランチーム、個人会員、一般参加者。

活動内容 ①登山道水切り作業10か所ほど ②登山道補修 ③笹狩り ④イタツミ尾根広場落ち葉かき

登山道整備活動は、リーダーのもと、毎月一回のペースで行っている。数日前の異常な暑さが過ぎ、秋らしいといえば秋らしい。肌寒い活動日となった。この登山道は、秦野方向から、気軽に楽しめる登山者の道だ。小さな子供がおとうさん、お母さんと一緒に大山をめざしていた。軽装の若者。年配の女性たち。走りすぎるトレランさん。モミジも赤くなり、他の広葉樹は、どれどれ?と思いながら私は歩いた。笹は三種あると思う。おやおや! ?ブナも自生してしているではないか。この頃は、なら枯れの木を探すが、保全活動の常となってしまうが、今日のこの日のように、霧の中、秋の広葉樹を愛でながら、歩けることに喜びを感じた。丹沢山塊の東の端、大山。信仰の山、歴史の山、四季折々に人々の観光の山登りの大山。登山者からの、「ありがとうございます。」の言葉はうれしい。ボランティア活動に、時間と力をし費やして下さる15名のいつもの面々。カエデやブナの原生林をもっと観たいと思った。丹沢山塊は、意外と奥深い。故郷の山です。



編集後記:なんだか今年の秋は短いみたい。11月、塔の岳から表尾根を歩いた。分岐の向こう長尾尾根の遠くが、とても気になる。みんなの「山の道」。丹沢の旧道歩きをしたい。初冬の丹沢も美しいだろう。モミの木
の原生林はどこかなと思う。私。伊藤篤子

神奈川県山岳連盟・自然保護委員会 e-mail : shizen@kanagawa-gakuren.gr.jp

URL: kanagawa-gakuren.gr.jp